

研究課題名	進行卵巣漿液性癌における Fyn の発現と再発および化学療法抵抗性との関連に関する検討
研究の意義・目的	卵巣漿液性癌は臨床進行期Ⅲ期以上の進行した状態で発見されることが多く、その場合手術と化学療法を組み合わせた集学的治療が必要になります。摘出標本での Fyn という蛋白質の発現の程度と初回化学療法の感受性を検討することで予後予測因子が特定できれば、卵巣漿液性癌の治療方針の決定や病態生理を解明する一助となります。Fyn は、正常な細胞の成長や増殖に関わるだけでなく様々な癌細胞において過剰に産生されており、癌細胞の増殖や抗癌剤耐性に関与していると報告されています。
研究を行う期間	機関の長の実施の許可日 ～ 2025 年 3 月
研究協力をお願いしたい方(対象者)	2005 年 1 月～2012 年 12 月に大阪公立大学医学部附属病院の女性診療科で、卵巣癌に対して手術を行いその後にプラチナ製剤を用いた術後補助化学療法を実施された方が対象となります。
協力をお願いしたい内容と研究に使わせていただく試料・情報等の項目	診療の過程で得られた下記項目を本研究に使用させてください。 試料：【手術の際に摘出した組織から作成した病理組織検体】 診療情報等：【病歴、診断名、年齢、性別、既往歴、検査データ、CT 画像、MRI 画像】
試料・情報の他機関への提供	この研究は大阪公立大学医学部附属病院女性診療科のみで行い、他の機関に試料・情報は提供いたしません。
この研究を行っている共同研究機関	この研究は大阪公立大学医学部附属病院女性診療科のみで行います。
試料・情報を管理する責任者	大阪公立大学大学院医学研究科 女性病態医学 研究責任者 角 俊幸
本研究の利益相反	利益相反の状況については研究者等が利益相反マネジメント委員会に報告し、その指示を受けて適切に管理します。 本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
研究に協力をしたくない場合	下記に連絡することでいつでも本研究への協力を拒否することができます。また、研究への協力を断っても、診療に関する不利益等を受けることはありません。
連絡先	大阪公立大学大学院医学研究科 女性病態医学 福田 武史 電話番号：(06) 6645-3862 メールアドレス：tfukuda@omu.ac.jp